

## 2023年3月期(2022年度) 連結決算について

### 1. 2022年度連結決算・・・営業収益が2期連続の増収、損失は改善

2022年度は、世界的に出入国制限緩和の動きが加速したことに加えて、日本入国時の水際対策緩和や国内での行動制限緩和もあったことから、航空機発着回数及び航空旅客数が前年度を大幅に上回りました。国際航空貨物量は、海上輸送の混乱からの回復などにより前年度を下回ったものの、コロナ禍前の水準は上回っており、これらの結果、営業収益は1,313億円となり、2期連続の増収となりました。

航空取扱量が回復に転じたことに伴う費用の増加もありましたが、空港の安全と安定運用を大前提に運用効率化を図るなど、継続して最大限のコスト削減に努めたことにより、営業損失は前期の495億円から177億円改善の317億円となりました。また、空港拡張区域に係る埋蔵文化財調査費用を引当金繰入額として営業外費用に計上したことなどにより、経常損失は前期の504億円から21億円改善の482億円、親会社株主に帰属する当期純損失は前期の524億円から22億円改善の502億円と改善幅は減少したものの、各損益はいずれも2期連続の改善となりました。

(単位:億円)

科目	2021年度	2022年度	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/Ax100
営業収益	829	1,313	484	158.4
営業費用	1,324	1,631	306	123.2
営業利益	△495	△317	177	-
経常利益	△504	△482	21	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△524	△502	22	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

#### 【参考】2022年度航空取扱量実績

区分	2021年度	2022年度	増減	
	実績 A	実績 B	数量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数(万回)	13.8	17.8	4.0	129.3
国際線	10.4	12.5	2.2	121.1
国内線	3.4	5.2	1.8	154.0
航空旅客数(万人)	647	2,052	1,404	317.0
国際線	235	1,356	1,121	578.2
国内線	413	696	283	168.6
国際航空貨物量(万トン)	261	220	△41	84.2

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

## 2. 2023 年度連結業績予想・・・4 期ぶりの黒字化

2023 年度の航空取扱量見通しは、国際線は前年度からの回復基調に加え、中国からの日本行きの海外旅行制限措置が緩和され、年度末へ向けて漸次回復し、国内線はコロナ禍から回復した前年度並みの水準を維持すると想定しております。また、国際航空貨物の取り扱いについては、船落ち貨物の減少などが見られることから、前年度を下回ると想定しております。

その結果、営業収益は 3 期連続の増収、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で改善し、4 期ぶりの黒字計上を見通すことが出来る状況となりました。

2023 年度においても、需要回復に対応した施設運営や老朽化対策、エネルギー価格の高騰や売上に連動する費用等の増加要素がありますが、引き続き、空港の安全と安定運用を大前提に最大限のコスト削減を継続し、業績予想の達成に努めてまいります。

なお、実際の業績は、これら航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

### 【参考】2023 年度の航空取扱量見通し及び業績予想

区 分	2022 年度	2023 年度	増 減	
	実績 A	見通し B	数 量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数 (万回)	17.8	24.0	6.2	135.0
国際線	12.5	19.0	6.4	151.2
国内線	5.2	5.0	△0.2	96.1
航空旅客数 (万人)	2,052	3,546	1,494	172.8
国際線	1,356	2,783	1,427	205.3
国内線	696	763	67	109.6
国際航空貨物量 (万トン)	220	204	△16	92.7

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

(単位:億円)

科 目	2022 年度	2023 年度	増 減	
	実績 A	予想 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	1,313	2,006	692	152.7
営 業 費 用	1,631	1,953	321	119.7
営 業 利 益	△317	53	370	-
経 常 利 益	△482	19	501	-
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△502	6	508	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### 3. セグメント別 2022 年度連結決算／2023 年度連結業績予想

(単位:億円)

	2021 年度	2022 年度	増 減		2023 年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/Ax100	予想 C	金額 C-B	% C/Bx100
営業収益※	829	1,313	484	158.4	2,006	692	152.7
空港運営事業	413	602	188	145.5	943	340	156.6
リテール事業	90	377	287	418.3	735	357	194.8
施設貸付事業	295	303	8	102.9	294	△9	96.7
鉄道事業	29	29	0	100.4	29	△0	97.4
営業費用	1,324	1,631	306	123.2	1,953	321	119.7
営業利益	△495	△317	177	-	53	370	-
空港運営事業	△551	△500	51	-	△216	284	-
リテール事業	△92	44	136	-	167	122	373.2
施設貸付事業	140	130	△10	92.8	94	△36	72.1
鉄道事業	7	6	△1	83.4	6	△0	96.7
経常利益	△504	△482	21	-	19	501	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△524	△502	22	-	6	508	-

※ 外部顧客への売上高

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

#### ■ 2022 年度連結決算

- 空港運営事業 : 航空機発着回数及び航空旅客数が増加したことから、空港使用料収入は前期比 15.7%増の 250 億円、旅客施設使用料収入は前期比 311.3%増の 162 億円となり、営業収益は前期比 45.5%増の 602 億円、営業損失は 500 億円となりました。
- リテール事業 : 航空旅客数の増加及び円安の影響等により、子会社が運営する直営店舗の物販・飲食収入は前期比 509.0%増の 281 億円、構内営業料収入は前期比 121.6%増の 40 億円となり、営業収益は前期比 318.3%増の 377 億円、営業利益は 44 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 航空旅客数の増加により駐車場使用料収入は前期比 42.9%増の 25 億円となり、営業収益は前期比 2.9%増の 303 億円、営業利益は前期比 7.2%減の 130 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 6 億円と前期並みとなりました。

#### ■ 2023 年度連結業績予想

- 空港運営事業 : 航空機発着回数及び航空旅客数が増加することを想定しており、空港施設使用料収入、旅客施設使用料収入が増加し、営業収益は 340 億円の増収となり、営業損失は前期比 284 億円改善の 216 億円となる見通しです。
- リテール事業 : 航空旅客数が増加することを想定しており、物販・飲食収入等が増加し、営業収益は 357 億円の増収となり、営業利益は前期比 122 億円改善の 167 億円となる見通しです。
- 施設貸付事業 : 新型コロナウイルス感染症の水際対策に係る貸付面積の減少を想定し、建物貸付料収入が減少し、営業収益は 9 億円の減収となり、営業利益は前期比 36 億円減の 94 億円となる見通しです。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 6 億円と前期並みとなる見通しです。

## 4. 財政状態

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<連結貸借対照表>

(単位: 億円)

科目	2021 年度期末	2022 年度期末	増減	
	実績	実績	金額	%
流動資産	3,496	4,169	672	119.2
固定資産	8,755	8,488	△266	97.0
資産合計	12,251	12,657	405	103.3
流動負債	1,497	1,508	10	100.7
固定負債	7,899	8,795	895	111.3
負債合計	9,396	10,303	906	109.6
純資産合計	2,855	2,354	△500	82.5

- 資産合計は、前期末比 3.3%増の 1 兆 2,657 億円となりました。
- 負債合計は、社債の発行等により、前期末比 9.6%増の 1 兆 303 億円となりました。
- 純資産合計は、前期末比 17.5%減の 2,354 億円。自己資本比率は、前期末 22.6%から 4.6 ポイント減少し 18.0%となりました。

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<参考: 長期債務の推移>

(単位: 億円)

科目	2021 年度期末	2022 年度期末	増減		平均金利	
	実績	実績	金額	%	2021 年度期末	2022 年度期末
有利子債務	8,026	8,572	546	106.8	0.50%	0.50%
社債	3,950	4,506	556	114.1	0.41%	0.43%
長期借入金	4,076*	4,066*	△10	99.8	0.58%	0.59%
無利子債務	50	204	154	408.0	-	-
長期借入金	50	204	154	408.0	-	-
合計	8,076	8,776	700	108.7		

※財政融資資金の借入残高(4,000 億円)を含む

## 5. キャッシュ・フローの状況

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位: 億円)

科目	2021 年度	2022 年度	増減
	実績	実績	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△86	△17	69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△247	△658	△411
フリー・キャッシュ・フロー	△334	△676	△341
財務活動によるキャッシュ・フロー	499	695	195

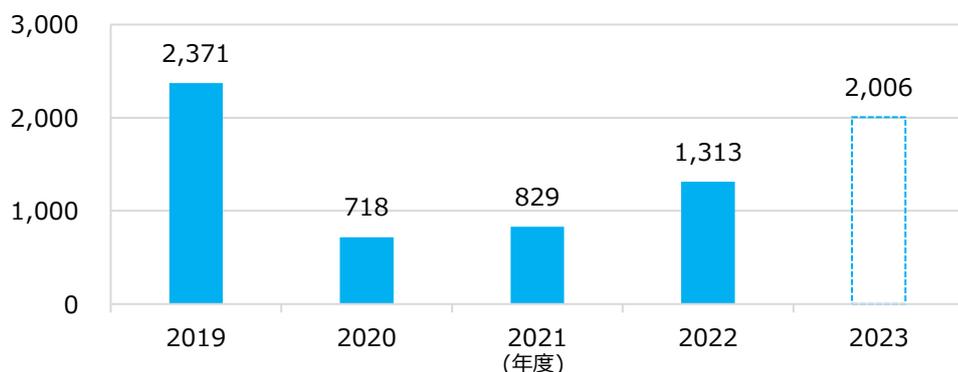
- フリー・キャッシュ・フローは、676 億円のキャッシュアウト(前期比 341 億円増)となりました。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純損失の改善等により、キャッシュ・アウトは前期に比べ 69 億円減の 17 億円となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得の支出により、キャッシュ・アウトは前期に比べ 411 億円増の 658 億円となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行による調達があったことにより、キャッシュ・インは前期に比べ 195 億円増の 695 億円となりました。

**参考**

**【連結決算推移】** 2023 年度通期は予想

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

**営業収益**



<2022 年度>  
 ・2 期連続の増収  
 <2023 年度通期予想>  
 ・3 期連続の増収となる見通し

**営業損益**



<2022 年度>  
 ・3 期連続の損失  
 <2023 年度通期予想>  
 ・4 期ぶりの黒字となる見通し

**経常損益**



<2022 年度>  
 ・3 期連続の損失  
 <2023 年度通期予想>  
 ・4 期ぶりの黒字となる見通し

**純損益\***

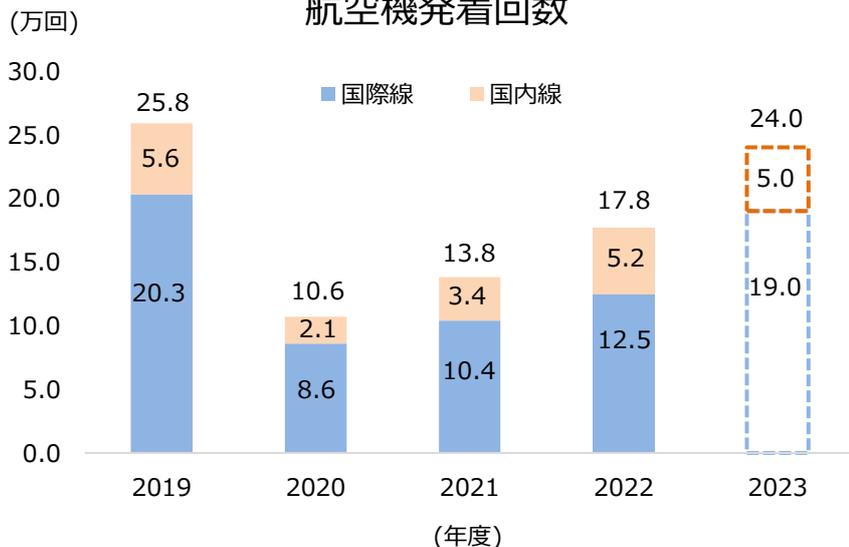


<2022 年度>  
 ・3 期連続の損失  
 <2023 年度通期予想>  
 ・4 期ぶりの黒字となる見通し

\*親会社株主に帰属する当期純損益

**【航空取扱量推移】** 2023 年度通期は見通し

**航空機発着回数**



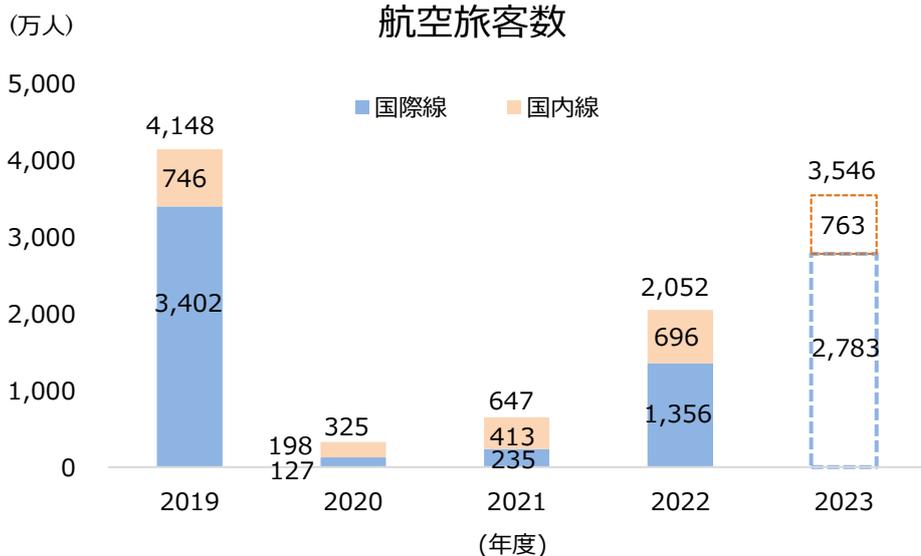
<2022 年度>

- ・全体: 2 期連続の増加
- ・国際線: 2 期連続の増加
- ・国内線: 2 期連続の増加

<2023 年度通期見通し>

- ・全体: 3 期連続の増加となる見通し
- ・国際線: 3 期連続の増加となる見通し
- ・国内線: 3 期ぶりの減少となる見通し

**航空旅客数**



<2022 年度>

- ・全体: 2 期連続の増加
- ・国際線: 2 期連続の増加
- ・国内線: 2 期連続の増加

<2023 年度通期見通し>

- ・全体: 3 期連続の増加となる見通し
- ・国際線: 3 期連続の増加となる見通し
- ・国内線: 3 期連続の増加となる見通し